

New Sports Power ③
(ビーチで生まれた新競技)

文/小崎仁久

スタンドアップパドル
Stand up Paddle

水上で自由に楽しむことができる「台」



上:水上で自由に過ごすことができるのが最大の魅力
下:初心者でも簡単に楽しむことができる



サーフボードの上に立ちパドルを漕いでクルージングするのがスタンドアップパドルボード(SUP)。通常のサーフィン用より長く3m超、幅の広いボードは安定性が高く誰でもすぐに立つことが可能。またパドルで推進力を得るので海だけでなく波や風の強い湖や川、プール(1)でも楽しめる。それゆえ年齢を問わず初心者でも気軽に始められ、本格的に行われるようになったのは世界的にもここ数年のことだが、国内の愛好者はすでに10万人を超えたといい、

系スポーツの魅力はそれだけではない。SUPはマルチパース多目的なスポーツですと話すのは日本スタンドアップパドルボード協会の原良二理事長。SUPはボードに乗るだけでなく、乗って何をやるかが最大の魅力だ。海外で人気が高いのはボード上でサーフボード、ヨガや釣り、ハワイでサーフボードに乗りながら写真を撮ったのが起源とも言われ、SUPは文字通り、多目的な楽しさを生み出す「台」となっている。



AEDの講習会を行う遊佐副理事長

安心安全な海辺づくりを目指す
遊佐雅美、副理事長に就任

平成28年1月付でNPO法人日本ビーチ文化振興協会の副理事長に就任いたしました。その職務の重さから引く縮まる思いではありません。近年、海離れしている子どもたちが多く、海水浴文化が薄れてきているのが現状です。しかし、水辺の事故や不慮による溺水も少なくありません。古代から水は生活にあきまき、貴重な資源であり、水辺は産業・文化にとっても必要不可欠でした。

私のこれまで取り組んできたライフセイビングの経験を活かし、水との関わりを大切にしながら水辺の事故防止に努めて参ります。その一つとして、全国で水辺の安全教室を展開し、自他を守る方法を体験から学び、事故防止に役立てていきたいと考えております。



PROFILE
Masami Yusa
1973年神奈川県川島出身。1993年から2014年全日本ライフセービング選手権ビーチフロッグスで通算21回優勝、特定非営利活動法人日本ライフセービング協会認定BLS、ウォーターセーフティインストラクター、NPO法人日本ビーチ文化振興協会柏崎支部長

世界チャンピオンとして国際大会でも活躍した



競技団体、足並みをそろえる



2015年の招致イベントでナビゲーターを務めた浅尾美和氏も参加した

副座長の上智大学教授・師岡文男氏

日本のビーチの価値観向上とビーチスポーツ普及を目的として2014年に立ち上げたビーチゲームズ日本招致推進プロジェクトは2016年2月、ビーチ・マリンスポーツの国際大会の開催を実現するために「勉強会」を実施した。第1回のテーマは「ビーチスポーツの現状を知る」。競技普及の足掛かりとしてビーチゲームズに興味を持つ各競技団体、広告代理店、行政、ナビゲーターを務める浅尾美和氏ら2人に顔を合わせた。

「ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト勉強会」今後の予定テーマ

- 第2回 日本におけるビーチ・ウォーター・マリンスポーツの価値 (2016年4月開催予定)
- 第3回 ビーチ・ウォーター・マリンスポーツの目指すべき姿とは (2016年6月開催予定)
- 第4回 ビーチゲームズ日本招致に向けた基本的方針 (2016年8月開催予定)

新規の利用客層を狙う日本初のビーチ&パークラン
貝塚二色の浜
ビーチ&パークラン



貝塚二色の浜を疾走する参加者たち

海辺を爽快に駆け抜ける日本初のビーチ&パークラン「貝塚二色の浜」が11月22日(日)、大阪府貝塚市二色の浜公園で開催された。当日はキッズ、親子連れ、中高生、一般の部を含めた372名のランナーが2km、5km、10kmの各コースを完走した。緑の松林と白い砂浜が広がる二色の浜公園は、海水浴や森林浴を市民が堪能できる憩いの場。通年活用できる海辺の価値をどう高め、いかかかテーマとして掲げられ、国内で初めてビーチから芝生の丘へ上がるランニングコースを設けるなど提供とは、違う海辺の楽しみ方をイベントで収集したアンケートからも、「気持ちよかった」、「初めて砂浜を走ってしんどかったけど楽しかった」、「また参加したい」という声があつた。さまざまなシチュエーションを体感できる今大会は、今流行中の「フアンラン」感覚で幅広い年齢層が参加できることを証明した。主催した貝塚市は、今回のイベント開催をきっかけに、二色の浜公園の新規利用客層の増加を見込んでいるという。



A エネルギッシュな走りを見せた15km中学生・高校生。一般の部」ではゆっくりとビーチを満喫。C「フアンラン」の位置づけとしても成功を取めた



おらが街のビーチ自慢
~ここはいいところ、一度はおいで~



神武天皇元年創建の由緒ある神社、鹿嶋神社



地域DATA
人口 約67,000人
代表的なビーチ ●平井海岸、下津海岸
観光名所 ●鹿嶋神社、アントラスクラブハウス
名産 ●はまぐり、メロン、鹿島だご
宿泊施設 ●鹿嶋市内のホテル・旅館・民宿を中心に16施設

茨城県・鹿嶋市

鹿嶋といえは、常陸国一之宮の神様として崇敬され、武道の宮と「Jリーグ鹿島アントラーズFC」に代表される「歴史とスポーツのまち」。



「アントラスカップかしまビーチサッカー大会」の模様

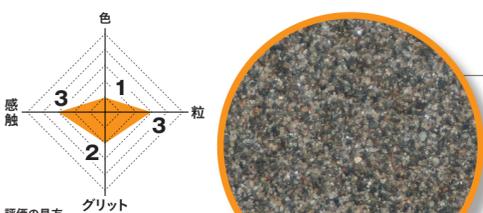


鹿島灘はまぐり・メロン

鹿島の特産品は、なんと言っても鹿島灘はまぐりとメロン。鹿島灘はまぐりは、通常のほかに、比大粒アフリカの歯たえが特徴です。メロンは、カミメロン、ユウカロン、2品種あり、どちらも大玉で果肉が厚く、上品な甘さが特徴です。一度鹿島灘に来て、この味自慢を、貴味あれ。

神奈川県藤沢市

鵠沼海岸



総評価
〈はだし〉1つ半!!

砂ソムリエ

元プロビーチバレーボールプレイヤー! 朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡の数で評価する。足跡3つが最高だ。さて連載第4回で取り上げるのは、日本のビーチスポーツの歴史を刻み、リードしてきた神奈川県藤沢市の鵠沼海岸の砂。